

ドラゴンボール幻 永遠
のライバルが幻想入り
編

地球育ちのたくとさん

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

孫悟空・・・

彼は子供の頃から世界を救つて来た英雄。

レッドリボン軍、ピッコロ大魔王、サイヤ人、フリーザ、人造人間、魔人ブウ。
数々の脅威から地球だけでなく宇宙さえも守ってきた。

その後には、破壊神ビルスという破壊の神との戦い、復活したフリーザとの戦いが
あつた。

第六宇宙との格闘試合も行われ、

孫悟空は神の気をまとつたスーパーイヤ人ブルーへと進化を遂げていたのであつた。

未来で孫悟空に瓜二つであつたゴクウブラツクという人間を滅ぼそうとしていた神も倒し、平和が続いていた・・・

『big』『b』しかし『／b』『／big』

そんな平和も続いていたのは少しの間だけだつた・・・

目 次

第一話 永遠のライバルが幻想入り

1

第二話 悟空&ベジータVS 靈夢&魔理

沙!!

闇に墮ち、消え去る者

18 10

第一話 永遠のライバルが幻想入り

悟空&ベジータ「だりやりやりやりやりやりや！」

ある日、悟空とベジータの二人はビルスの星で修行をしていた。

ベジータ「カカロツトオ！ 界王拳をブルーに上乗せした形態になれたからといってこの俺が

抜かれっぱなしだと思うなよ！ 界王拳なんぞ使わずにすぐ貴様を抜いてやるからな！」

悟空「分かつてっさ！ けんどオラだつて追い抜かされないように修行し続けてもつと強くなつてやつからな！」

ウイス「あの二人は仲がいいのか悪いのかがよく分かりませんねえ・・・」

ビルス「ふわあ・・・あれ、悟空とベジータはまたここに修行しに来てるのかい？」

ウイス「おや、お目覚めになりましたか、ビルス様。」

悟空「油断したな！」

ベジータ「なつ！ しまつた！」

悟空はベジータの後ろに回り、攻撃をしかけようとした。

しかし、ベジータはブルーとなり回避したのであつた。

悟空「あ！　おめえまた！」

ウイス「また青髪・・・」

悟空「なあウイスさん！　なんかこん前何もない空間にオラたちを飛ばしだらう！
そこにもう一度いかしくんねえか！」

ウイス「はあ、あそこに・・・ですか・・・」

ベジータブルー「なぜだ？　カカラツト。」

悟空「だつてあそこなら全力で戦つてもぶつ壊れねえしよ！」

その空間は以前、スーパーサイヤ人ブルーになるための修行の場だつた場所で、

氣を静かに落ち着かせなければ動くことすらできないという場所だ。

ウイス「私は別にいいですけど、ビルス様がどういうか・・・」

ビルス「うん。だめ。」

悟空「いー!?　なんでだよビルス様！」

ビルス「だつてあの修行場所使うにはウイスの杖が必要なんだろ？」

あの杖の中からは美味しい食べ物とかがしまつてあるんだ。

前だつて君たちに食べられた・・・」

ベジータ「ちつ！それなら仕方がない。面倒だが地球に戻つて精神と時の部屋にでも行くか。」

悟空「そうだな。じゃあウイスさん、頼むぞ！」

ビルス「どちらにしろ美味しいものが食べられなくなるんだけど」

悟空「え？ いやよお、地球にはうめえもんがいつぺえあつからよ！ ビルス様も来たらいじやねえか！」

ビルス「そうか！ それもそうだな！ よしウイス！ すぐに行くぞ！」

ウイス「はいはい・・・わかりましたよ」

移動中

地球につくとビルスはブルマの元へと行き、食べ物を食べさせてもらうのであつた。

ウイス「さあて、私もブルマさんに食べさせてもらいましょうかね？」

悟空「よつしやあ！ ベジータ、精神と時の部屋いくぞ！」

ベジータ「ああ、そうだな」

ウイス「おつと、その前に一言言わせてもらいますよ」

悟空＆ベジータ「？」

ウイス「前にいいましたよね、五感。そして脳から神経を通つて体に伝わるまでには時間がかかると。

体じゅうのあらゆるところが勝手に判断して行動できるようになればいいんですが、ともいいました」

ベジータ「そういえばいつてたな。俺たちにそれをできるようになれとでもいうのか？」

ウイス「ええ。そうですよ。かなり時間がかかると思いますがねえ（笑）」

そう言うと、ウイスは食事しに行くのであつた。

そして、悟空とベジータは精神と時の部屋で修行するのであつた。

精神と時の部屋の時間帯で約2ヶ月後

悟空「あり？ そいや今頃だけオラたち精神と時の部屋から出られねえじゃねえか！」

ベジータ「馬鹿か、第六宇宙との格闘試合の時、ここで修行をしただろう。その時どうやつて出たかも覚えてないのか」

悟空「えーっと……あ！ 思い出したぞ！ 確かでけえ声だして異次元つちゅうやつに穴あ開けんだつけ？」

これは前にゴテンクスが精神と時の部屋で魔人ブウと戦った時、出る為に使った方法である。

悟空「流石にオラたち口クな食いもん作りきれねえかんなあ・・・

そろそろうめえもん食いてえぞ・・・」

そういうと、悟空は超サイヤ人ブルーになり、大声で叫ぶのであつた。

悟空「えっと、なんて叫ぼうかなあ・・・」

ベジータ「別になんでもいいだろう」

悟空「ま、まあなw そうだなあ・・・」

腹減つたああああああ!!」

そういうと、異次元に穴が開き、外の世界へと出られるようになつたのだつた。

しかし、穴の先に見えていたのはボロ家と森のみだつた。

ベジータ「なんだ？ 外の世界が可笑しくないか？」

悟空「そんなことはどうでもいいだろ！ オラ腹減つちまつて！」

ベジータ「あ、ああそうだな」

外に出てみると、やはり森の中にボロ家があるだけだつた。しかし、ボロ家をよく見てみると、賽銭箱のようなものがあつたのだつた。

ベジータ「・・・ボロ家ではなく賽銭箱がある限り神社か？ しかしほぼ誰かが参拝に来た痕跡がない・・・」

悟空「なあベジータ、これなんなんだ？」

そういうと悟空は賽銭箱を開けているのであつた。それを見たベジータは必死に止

めようとしたのであつた。

ベジータ「カツ、カカラツト！ 馬鹿か！ それは賽錢箱だぞ！ そんなもの開けてたら盗人にしか見えんぞ！」

悟空「賽錢箱？ よくわかんねえけど開けたらだめなんか？ でもなんも入つてねえぞ？」

ベジータが覗いてみると悟空の言うとおりその賽錢箱には一円足りとも入つていなかつたのであつた。

ベジータ「・・・やはり誰からも忘れ去られた神社のようだな・・・」

???「こらあああ！！ そこの二人組！ なに私の賽錢箱あさつてんのよ！」

いきなり声が聞こえてかと思うと、赤い服を着た女性が現れ、攻撃してきたのであつた。

悟空「いー！」 ベジータ「くつ！」

???「なに人の神社の賽錢箱あさつてんのよ！」

悟空「お、オラたちあさつてなんかねえぞ！ それにはら！ なんにも入つてねえ箱

なんかあさらねえだろお？」

???「はあ？ 確かに入つてないけどどうせあんたたちが盗つただけでしょ！」

ベジータ「勘違いするな、俺はなにも入つてないといつに言われたから覗いただけ

だ。それにこいつは金に興味はない、興味があるのは食べ物と強敵ぐらいだろうよ。

まあ、この中に食べ物が入つてた場合はどうなつてたかは知らんがな」

??? 「いや初めて会つたやつにそんなこと言われてハイそーですかで納得するわけないでしょ！」

悟空＆ベジータと謎の女性が色々言い合つていると、白黒の服を着た女性が森の中から出てきたのであつた。

??? 「おいおい靈夢・・・そこまで言つてやらなくともいいじやないか・・・」

靈夢 「なによ魔理沙！ 急に話に頭突っ込んできて！」

魔理沙 「いやいや、お前の賽銭箱はいつだつてなにも入つてないじやないか？」

ベジータ『なるほど・・・話している内容を聞く限り赤い服のやつは靈夢、白黒の服のやつは魔理沙という名前なのか・・・』

この二人は、ベジータの考えた通り、赤い服は博靈靈夢、白黒の服は霧雨魔理沙という人であつた。

靈夢 「あーもう！ 一応あいつらぶちのめす！ そうしなきや私の気がおさまらないわ！」

魔理沙 「お、おいおい、流石にそれは・・・」

悟空 「なあ！ オメオメえんか!?」

魔理沙「うお!? な、なんだよ急に・・・まあ、一応私も靈夢も強いぜ！ まあ、私のほうが少し上だけどな！」

靈夢「なにいつてんのよ、私のほうが上に決まってるでしょ」

悟空「なあなあ！ 二人とも相手してくれよ！」

悟空は笑顔で言うのであつた。魔理沙はOKを出し、靈夢は逆に戦おうとしているのであつた。

少し宣伝（笑）

俺は小説を書き始めたばつか・・・しかし！ ドラゴンボールマニアではあるので悟空やベジータなどの口グセを再現するのは余裕なのです！（時々ミスるのは気にスンナ）

もちろん原作やDBZ、DB超の設定もほとんど覚えてています！

それに対して東方Project・・・東方にに関してはかなりのにわかです（笑）

こないだ妖夢と幼夢の違いをしつたばつかという・・・伝説の超にわかるのですw

まあ、ストーリを作ることに閑してはかなりいいほうだと私は思います（自分で言うクズ）

そうなぜならYouTubeをやつているのです！（つなげ方が糞）

つーわけでリンクでござります（笑）

<https://www.youtube.com/channel/UCBLW3GpL2SyP5i8XjOjo3Bg>

YouTubeではこんな感じのストーリーをゆっくりで再現しています。ゆっくりドラマという形ですね。

編集力が高いとは意外と結構言われます（笑）

よかつたら覗いてくれると嬉しいです！ 登録してくれるともつとうれしいです！

いつつも見てくれる嬉しさが限界突破します！（謎）

高評価もしてくれる嬉しさが身勝手の極意になります！（わけわからん）

第二話 悟空＆ベジータVS 灵夢＆魔理沙!!

悟空は灵夢と魔理沙と戦うこととなつた。

ベジータも戦うといいだし、結果的に悟空VS 灵夢、ベジータVS 魔理沙ということとなつたのであつた。

魔理沙「えっと・・・ベジータ、だつけ？ お前、強いのか？」

ベジータ「それを聞きたいのはこつちも同じだ。貴様、強いのか？」

魔理沙「もちろんだ！」

ベジータ「なるほどな・・・しかし本気は出さないでやろう」

魔理沙「ふう、なめられたもんだぜ・・・その甘さが命取りになるんだぜ？」

ベジータ「ほう？ ならば貴様の力、見せてみやがれ！」

悟空「なあ！ オラが勝つたらさつきの賽銭箱のこと信じてくれるか？」

灵夢「いいわよ。だけど私が勝つたら私が言う金額払つてもらうわね」

悟空「ああ、いいぜ。ぜつてえに負けねえからよ！」

灵夢「はあ、自信ありすぎでしょ・・・」

灵夢「いくわよ！」 魔理沙「いくぜ！」

悟空「ああ！ 来い！」 ベジータ「さあ来い！」

霊夢は弾幕を悟空に当てようと飛ばしたが、全くもつて当たらない

霊夢「へえ、意外とできそうじやない」

悟空「まだまだこんなもんじやないぞ！」

霊夢「へえ、それは楽しみね！」 バキーノン

霊夢のパンチが悟空に腹へと当たつた。

霊夢「ニヤ」

悟空「へへ、今のは少し効いたぞ・・・」

霊夢「なつ！ わ、私の本気のパンチを食らつて平然としてるなんて・・・！」

悟空「こんどはこつちの番だ！ うおりやあ！」

霊夢に悟空のパンチが当たりそうになるが間一髪で避ける

霊夢「くつ！ や、やるわね・・・」

悟空「へつへーW」

霊夢「・・・あんた、今どのぐらいの力出してんの？」

悟空「え？ えつとなあ・・・ブルー界王拳が全快として、超サイヤ人が1割ぐれえ

だから・・・1%も出してねえな！ (ヽ、ヽ)」

霊夢「あ、あきれた・・・それがハツタリじやなかつたら勝てないじやない・・・超

サイヤ人つてのがよくわからないけど・・・」

一方魔理沙 V S ベジータの方は・・・

魔理沙「はあっ！だあ！どりやあ！」

ベジータ「その程度なのか？」

魔理沙「なめんじやねえぜ！」

ベジータは全く攻撃をせず、魔理沙のパンチなどをすべて避けていた
そこで魔理沙は大量の弾幕を放射する

ベジータ「ほう、そんなに一気に気弾をほうしやするとはな・・・だが、スピードも速くないし威力もなさそうだ」

ベジータは弾幕を避けながら魔理沙にいう。

ベジータ「量より質だ。数に頼るんじやあ、この俺には勝てん」

魔理沙「でもその状況じやあこれは避けられないだろ！」

魔理沙は八卦路を取り出し・・・

魔理沙「マスタースパーク!!」

ベジータにマスタースパークが直撃する。

魔理沙「やつた！ へへん！ 頭脳戦も得意なんだぜ！」

煙が引いてゆく・・・するとそこにはベジータがいた・・・傷一つなく・・・

魔理沙「なつ！ マスタースパークを喰らつたはずなのに・・・！」

ベジータ「頭脳戦も大事だ。だが、力の差が大きくては意味はない」

魔理沙に後ろに高速移動し・・・バキーン!! 魔理沙を気絶させる

霊夢「・・・ツ!! 魔理沙がやられた!?」

悟空「余所見してんじやねえ！ だりやあ！」

霊夢「きやあ！」

悟空の攻撃が直撃する・・・

霊夢「やつてくれたわね・・・夢想封印!!」

悟空に弾幕が襲い掛かる

しかし魔理沙同様、煙が引いたあと悟空にやられてしまうのであつた。

数分後

霊夢「見事に負けたわ・・・わかつたわよ、賽銭のことはなしにしてあげる

悟空「ほんとか!! つつても元々とつてねえけどな・・・ハハハw」

魔理沙「どうせ靈夢は金が欲しかつただけだろ（小声）」

靈夢「あ、なんかいつた魔理沙？」

魔理沙「い、いやなんでもないぜ・・・アハハ・・・」

ベジータ「おい、そんなことより一体ここはどこだ、どうかんがえても神殿じやない

しな」

靈夢「何？あんたたち人里から来たの？・・・つてまさかね」

悟空「オラたち地球つてどこからきたんだ」

ベジータ「アホか、どう考えたつてここも地球だろう」

悟空「・・・でもよお、悟飯とかピツコロとか、みんなの氣を感じねえぞ？」

ベジータ「いわれてみればそうだな」

靈夢「あー、ここは幻想郷、あんたちの知り合いの気配が感じられないのは結界が張つてあるからよ」

ベジータ「幻想郷？一応地球であることに変わりはないのか？」

靈夢「ええ、ところであんたたち、死んでここに来たの？」

悟空「い!?お、オラたち別に死んでねえぞ・・・？輪つかだつてついてねえし・・・もしかしてここ天国か!？」

魔理沙「んなわけねえだろ・・・」

ベジータ「ならば幻想郷というのは地域名なのか？」

靈夢「まあ、そう考えといて。説明するの面倒だし」

悟空「そんなことよりよ、どうやつて見えるんだ？」

ベジータ「うむ、そこが問題だな・・・おい、靈夢とかいったな、どうやつてここ

から帰るんだ?」

霊夢「帰る? 元の世界に?」

ベジータ「ああそうだ」

霊夢「あー無理無理、あんたたちどうせ別の次元から来たんでしょ? それなら多分帰
れないわ」

悟空「いー! ほ、ほんとかあ・・・どうすんだ・・・?」

ベジータ「・・・帰れないんだつたらどうするもクソもないだろう ドラゴンボール

で呼び戻してもらえればいいのだが・・・」

悟空「そう簡単にいかねえだろうなあ・・・」

悟空たちが話していると、突然爆発音が鳴るのだった

ベジータ「ん? なんだ?」

霊夢「はあ! また”あいつら”きたのね・・・」

悟空「なんだあいつらって?」

魔理沙「フリー・ザとセルっていう無茶苦茶強いやつだ・・・」

悟空&ベジータ「フリー・ザとセル!」

霊夢「・・・? 何よ、あんたたち知つてんの?」

悟空「知つてるもなにも、オラたちの世界にいる、オラたちがめえに倒したやつだ・・・

！」

魔理沙「え？ あいつらを倒したのか！？」

ベジータ「ああ、前はかなり苦戦したが今となつちやあただの雑魚だ」

悟空「でもあいつゴーリデンフリー札つちゅうやつになつてなかつたか？」

ベジータ「……そうか？ フリー札の氣を見てみてもあの修行して強くなつたフリー札の氣じやないぞ？」

悟空「ん、確かにそうだな」

ごちやごちや話していると、フリー札とセルがやつてくるのであつた

フリー札「ふふふ・・・見つけましたよソンゴクウ！ ベジータさんと一緒にいるのは少し驚きましたが・・・」

悟空「なにいつてんだおめえ？ めえにもそれいつてたじゃんか・・・？」

フリー札「・・・？ 何をいつているのかわかりませんが・・・まあいいでしよう、私一人ならともかく・・・今回はこのセルさんがいるのですからねえ！」

セル「ふつふつふ、孫悟空、久しぶりだな・・・ まさかまた会えるとは思つていなかつたぞ・・・」

ベジータ「ふん、おいカカロット、俺はフリー札のクソ野郎を片付ける、貴様はセルをとつと片付けろ」

悟空「おお！わかった！」

霊夢「え・・・二人で相手しないの・・・？」

ベジータ「こんなゴミ一人で十分だ」

フリーザ「ゴミ・・・ですか、超サイヤ人にすらなれないあなたが私にかなうわけないでしよう！」

ベジータ「やはりドラゴンボールで生き返る前のフリーザか・・・ふん、本当にただのゴミだな。いやゴミ以下だ」

フリーザ「ベジータさん・・・・・・」

フリーザ「なめるのもいい加減にしろよ！ じわじわとなぶり殺しにしてくれる!!」

ベジータ「ほう（笑）やれるものならやつてみるんだな、ゴミが」

悟空VSセル)

セル「孫悟空・・・まさかまた戦える日が来るとはな・・・」

悟空「セル・・・今回最後まで、やらしてもらうぞ！」

セル「ふつ・・・いいだろう さあ、来い！」

界王様『なんと、フリーザとセルまでもが幻想郷へ来ていた

他にも来ている者はいるのだろうか・・・』

闇に墮ち、消え去る者

悟空とベジータは、フリーザとセルと戦おうとしていた――

魔理沙「なあ、あいつらほんとに倒せるのか?」

靈夢「そんなのわかんないわよ、でもさつきいつてた力の出し具合が本当だつたら、余裕でしようね」

魔理沙「ま、とにかく見るだけってところかあ」

一方悟空とセルは

悟空「ところでセル、おめえなんでこんなとこにいんだ?」

セル「正直いって私にもわからん……だが、孫悟空、地獄で貴様に氷漬けにされ割られた、その瞬間目の前が光り気付いたときにはここにいた……そういうことだ」

悟空「氷漬けえ? オラそんなことした覚えねえけどなあ……」

セル「……まあいいだろう……」

セル「再び孫悟空、貴様に会えたのだ、楽しもうじやないか」

悟空「そうだな……でもわりいな。おめえはオラには勝てねえ」

セル「……なに?」

フリーザ「お久しぶりですねえ、ベジータさん……ソンゴクウに氷漬けにされた時にはどうなるかと思いましたが……」

ベジータ「……ほう、貴様やはりオレが知つてるフリーザじやないようだな」
フリーザ「……？ よくわかりませんがいいでしよう、再び殺してさしあげますよ」

ベジータ「……やれるものならな」

フリーザ「いい加減になさいベジータさん、超サイヤ人にすらなれないあなたに勝ち目などないのでですから」

ベジータ「そうか……だが残念ながらオレはもう超サイヤ人にはなれるんだ」
フリーザ「なんですって……！」

ベジータ「だがまあ、貴様程度もはや超サイヤ人になる必要などない」バキイ!!
ベジータはそう言い、フリーザの背後へと回り込み、吹き飛ばすのだった
悟空「おっ、向こうは始まつたみてえだな……」

セル「どういうことだ孫悟空……！」

悟空「ん？ ああ。おめえが死んでる間、オラはずつと修行をしてきたんだ。

まあつまりは、おめえらもあれよりめちゃくちゃなパワーアップをしてなきやオラには勝てねえってこつた」

そういう、セルの正面に移動し、殴りかかるのだつた。

セル「…つ！」

セルはガードをするが、それさえ破られ吹き飛ばされるのだつた
ベジータ「どうした？もう終わりか？」

フリー ザ「ち、ちくしょう・・・ちくしょうーーーっ!!」

魔理沙「す、凄いぞあいつら・・・ほんとに押してらあ・・・」

「どうやらハツタリじやなかつたわけね」

悟空 「わりいが、自爆する前に倒させてもらうぞ……！」

悟空は気孔波を放ち、セルを消し去るのだった

そしてベジータも同じようにフリーザを消し去るのだった

ベジータ「フン、暇つぶしにもならんー

「あ、あなたたち、ほんとに妻、わね……」

魔理少「どうしたうあんな力出せるんだよ……」

悟空「アーヴィング、フリードやコレがここ来てどうてこいはやつぱり。」

「ああ、可能生ざがデマスうブラツクよジテ来てるからノれんは

言語古ノ

鹽田今昔

悟空 「そうだな・・・簡単にいつまえば神様だ」

魔理沙「か、神？」

そう、悟空たちを苦しめた強敵、ザマスとブラック・・・
人間は愚かな生命体な故滅ぼすべしと歪んだ思想を持つていた神だ。
もしも人間のよいところを見ていたのならば少しは違う未来になつてていたのかもし
れない。

ベジータ「・・・ということだ」

ベジータは未来でおきたことを話すのだつた。

霊夢「そんなことがあつたのね」

魔理沙「てかそのトランクスってやつなんだけどさ・・・」
霊夢「ん？あ、そういうえば・・・」

魔理沙「なあ、そのトランクスってやつはどんな姿しているんだ？」

悟空「？」トランクスは青い服で・・・えーっと・・・

ベジータ「・・・青髪の剣を持った青年だ」

悟空「そ、そう！それだ！」

悟空とベジータは不思議そうに答える。

なぜそんなことを聞くのだろうかと。

悟空「で、トランクスがどうかしたんか？」

魔理沙「いや、前にブロリーっていう化け物みたいに強いやつを倒してくれたやつがいてさ・・・」

霊夢「そう、そのトランクスってやつがブロリーを倒してくれたやつにそつくりなの」
ベジータ「・・・やけに俺たちの世界に関する奴らが幻想郷に来ていやがるな」

悟空「でさ、トランクスは今どこにいるんだ?」

霊夢「わかんないのよねえ、それが」

悟空「まあこんなところで考えてても仕方ねえさ。とりあえずこの、えーっと、げんそ
うきようか?」

案内してくんねえか?」

ベジータ「・・・そうだな、俺たちはこの世界について全くわからん。案内してくれ」
霊夢たちは悟空とベジータに幻想郷を案内するのだつた。
紅魔館のことや地底のこと、八雲紫のことなども・・・

翌日

ベジータ「フン、かなり見て回つたが強敵といえるようなヤツは一人もいなかつたな」
悟空「オラたちの世界のやつらどころかトランクスもいなかつたなあ。どこいつち
まつたんだろ」

ベジータ「少なくともやられている・・・というわけではないだろうな。ブロリーを

倒していると聞いたからフリーザとセルにやられる程雑魚ではない』

悟空 「……ん？ でもおかしくねえか？ フリーザたちつて暴れてたんだろ？ それなら

トランクスが倒さねえはずねえじやねえか」

ベジータ「確かにな・・・まさかトランクスはブロリーを倒した後元の世界へ戻ったのか・・・?」

悟空 「え？ でも靈夢は戻れねえつていつてたじやねえか」

ベジータ「やはりわからんな。まあいい、トランクスが元の世界に戻つたというなら

それはつまり俺たちも戻れる可能性があるというわけだ」

悟空「…！ああ…そうなら良かつたんだけとな」

ベジー ター 「 そ う 上 手 く は い かん か ？ 」
「 い や、 も は や 最 悪 の 事 態 だ な 」

悟空とヘンリックの前に謎の黒い髪を纏うた青年が現れる

二人は即座に臨戦態勢へと入る

そう、敵だ。味方ではあるがこれは敵である。きっと偽物というわけではない。

これは紹れもなくトランクスである

!

黒い気を纏つたトランクスがいきなり一人に襲い掛かつてくる。

否、もはやトランクスとはいえない。

トランクスの気こそあるが発する言葉は叫びだけ。知性もあるようにはみえない。

ベジータ「・・・っ!!」

トランクスはベジータに襲い掛かる。

ベジータは防ぐがトランクスの止まらない猛攻に手が出せない。

ベジータ「チツ・・・調子に乗るな！」

ベジータは超サイヤ人となりトランクスを吹き飛ばす。

ベジータ「カカロツト!! 手は出すな！」こいつは俺が殺す』

悟空「おめえ・・・殺すつて・・・そいつは知性がなくなつてるとはいつても本物のトランクスだぞ！」

ベジータ「・・・わかつている！だがトラ・・・いやこいつの持つている剣をみろ！」

悟空「血・・・！」

そう、トランクスが持つている剣には確かに人の血がついていた。

誰かを殺した証拠だ。

その血はブロリーを倒したことでついたものと思いたかった。

しかしそれはあり得ない。靈夢たちがいうにはトランクスがブロリーを倒したのは一年前である。

それが未だついていいるとは思えない。

ベジータ「てりやあ！」

ベジータはトランクスを吹き飛ばす。

もはや知性がなく、ただ剣を振り、闇雲に戦っているトランクスでは到底勝ち目はない

そしてベジータは吹き飛ばしたトランクスに追い打ちをかける。そして、トランクスの間近に迫り、気功波を放つのだつた。

ベジータ「……消えてなくなれ」

トランクス

そしてトランクスは成す術もなく……

トランクス「・・・？あれ？父sドゴー——ーン
消え去るのだつた。